

2016年度第3四半期決算説明会
主な質疑応答

● 全社

Q：今回、足元での為替の円安傾向等を踏まえ、通期の事業利益予想を、前回予想から40億円の上方修正を行っているが、この為替影響の第3四半期と第4四半期との比率を教えてください。

また、第3四半期の前回予想に対する上振れは、為替影響に相当する分なのか。

A：為替影響の第3四半期と第4四半期の比率は、商戦期である第3四半期の方がやや多いとご理解いただきたい。

為替影響を除いた第3四半期の連結合計の実績は、事業ごとに濃淡はあるものの、社内計画通りであり、上振れ分は、為替影響相当額であると言える。

Q：第3四半期の前年同期に対する事業利益増減要因分析（スライド11）によると、価格変動によるプラス影響があったとする一方で、補足資料（スライド24）にある主な商品の平均販売単価は低下しているが、この違いはどのような要因によるものなのか。

A：スライド11は、為替変動の影響を除いた場合の価格変動による事業利益への影響額を示している。一方、スライド24は、日本円換算後の平均販売単価の変動を示している。

日本円換算後の単価では、為替変動の影響を受けたことで、前年同期に対して平均販売単価が低下したが、為替影響を除いた場合の価格変動による影響は、多くの商品で価格が安定的であったことに加え、高付加価値商品の販売が堅調であったことにより、プラスに作用した。

● プリンティングソリューションズ

Q：大容量インクタンクモデルが全地域で拡大したとのことであるが、欧米や日本での拡大が全体の成長をけん引しているのか。

A：西欧、北米、日本などでの販売は計画に沿って順調に拡大しているが、大容量インクタンクモデルの販売数量に占める先進国向けの比率は一割に満たない程度であり、引き続きエマージング地域が成長をけん引している。

Q：PrecisionCore プリントヘッドの生産能力増強の取り組みについて教えてください。

A：PrecisionCore プリントチップ（前工程）は、広丘事業所（長野県塩尻市）に、生産能力増強および研究開発機能の強化を目的とした新工場の建設を開始した。

ヘッド組立工程（後工程）は、秋田エプソン（秋田県湯沢市）、東北エプソン（山形県酒田市）に生産ラインを増強済み。

PrecisionCore プリントチップは、ヘッドを構成する基本ユニットであり、プリントチップを多様に組み合わせることで、さまざまな性能のヘッドとすることができ、オフィス向けプリンターや大判プリンターなどに搭載されている。

これらの商品は、今後、販売を拡大させていく計画であり、その数量拡大に対応するため、基幹部品である PrecisionCore プリントヘッドの生産能力の増強にも取り組んでいる。

参考：広丘事業所インクジェットプリントヘッド新工場の地鎮祭実施のお知らせ

<http://www.epson.jp/osirase/2016/161028.htm>